



開所日時 月～金曜日 15:00～18:00
土曜日 10:00～13:00



トイレの話

移転して1カ月

児童デイが文京から赤見に移転して、1カ月が経ちました。どうなることやと心配もありましたが、移転による変化が原因でトラブルが起こるようなことは無く、新しい環境にもすぐに子ども達は馴染んでいます。

トイレに感動!

赤見の建物はより子ども達が過ごしやすい環境を作るために、できるだけ必要な備品や設備を整えました。

中でも大きな変化があったのはトイレです。トイレは今まで洋式便器1つだけでしたが、男子用小便器を設置して2か所になったことでトイレ渋滞が起こることなく、皆が気持ちよく使えています。更に驚いたのは便器がほとんど汚れていないこと。男の子が洋式便器で用をたすことが、いかに難しかったのがよくわかりました。

そこでよりキレイに使っていただけるように便器にターゲットシールを貼ってみました。



ターゲットを狙っていくうちに、「汚さないオシッコ」が身に付くといいなあを期待しています。ちなみにこのターゲットシール、商品として販売されており、企業や公共施設で広く使われているそうです。(中部国際空港でも使われていますね)

報告～

『一宮市自立支援協議会 ヘルパー連絡会開催』

「一宮市に障がい者支援のためのネットワークを創りたい!」との想いでこの度、障害福祉サービスに関わっている事業所や関わっていない事業所が集まり、広く支援の輪を求める協議会が設立されました。

現在、一宮市には障がい者の相談の窓口になっている「相談支援センター」が4か所あります。23年度までに2か所増設する予定ですが、そこで寄せられた相談や「個別支援会議」などで検討される課題を中心に必要な支援の活動を進めることを目的としています。

活動内容として

- ・ヘルパー連絡会名簿作成
- ・利用者状況の空き情報
- ・事例検討
- ・研修会
- ・障害者施策の情報提供・・・など



年間4回の開催予定ですが、きめ細かいサービスが提供できるように、事業所同士が知恵を出し合い、連携しながら、障がいのある人となりがともに暮らすことのできるまちづくりを進めていける連絡会になることを願っています。

『介護サービス情報公表調査を終えて』

平成18年から介護保険対象事業所は毎年調査が義務付けられて、当事業所も今回4回目の調査を受けました。事業所として介護サービスの質を上げるために取り組むべき項目が77項目掲げられています。今回調査の簡素化で、先回作成済みの「マニュアル」に関しては調査不要となりました。介護サービスの提供内容の改善のための取り組みについて、利用者の意向、満足度調査や自己評価等の検討記録が必要であることが今後の課題です。これからも利用者視点で事業所の改善に取り組んで参ります。

「情報公表」の事業所内容はインターネットでご覧いただけます。

ミニデイだより



アットホームな集まり

今年もまごころのミニデイサービスは、市民活動支援制度へ申請を出ささせていただくことになりました。1月23日(日)ファッションデザインセンターにて公開プレゼンテーションがあり、参加してきましたので、その時の文章を一部掲載させていただきます。

現在、ミニデイサービスには、66歳から94歳までの15名の方が利用されています。他のデイサービスと違うところは、介護認定を受けていない方、障がいを持たれている方、お一人暮らしの方、お元気な方など、どなたでも来ていただける点です。

毎週火曜日、利用者さんもスタッフもいつも同じメンバーで、とても安心できるアットホームな場所だと、利用者さんからお聞きしております。朝からスタッフが広場の横の台所で手作りしているお昼ごはんも、利用者さんの楽しみの1つとなっています。

まごころでは、誰もが住み慣れた地域で、安心してふつうに暮らすことができる地域社会を目指しています。高齢者や障がい者の方々が集う、制度外の場所が地域に不足しており、必要な活動を今後も継続していきたいと思っています。

30番、一宮まごころをよろしく願い致します。



食後にジェンガ(積み木崩し)を楽しむみなさん

心づれづれ



ありがとう!ごめんね!さようなら!

私は80歳となりました。新年を迎えて、めでたさも「中くらい」の気分です。

昭和20年、敗戦の年には15歳、陸軍幼年学校の2年生、お国のために死ぬ覚悟の軍国少年でした。

価値観が180度転換して、にわか民主主義の時代となりましたが、とまどったのは私だけではなかったでしょう。15歳の少年は、それから余生と考えて、焼け野原の広がる日本の復興のために、死に物狂いで働きました。

高度経済成長期を駆け抜けて、不本意ながら、余生の、さらに余生をすごすことになりました。

戦中、戦後、子育てに、仕事に、苦勞をした同時代人に、いささかでもお役に立ちたいと介護のNPOで働いて来ましたが「年貢の納め時」が近いと考えています。だから「めでたさも中くらい」の気分です。

この世を「おさらば」するときには近親者あるいは親しい友人に「サンキュー!ソリ!グッドバイ!」と言わなければならない、と聞きました。英語ですから外国人からの又聞きかも知れませんが、日本語に直せば「ありがとう!ごめんね!さようなら!」となるのでしょうか。

私は昨年「金婚」を迎えましたが、女房殿や子供達にさんざんの苦勞を掛けましたので、最後にこの言葉を忘れてはいけなからと考えていますが、果たしていかがになりますやら?!

NPO法人たすけあい名古屋
代表理事 渡部勝

